

道徳

「きまりを守る心」(第1・2学年)

1 ねらい

それぞれの場所における約束やきまりを知り、守ろうとする心情を育てる。

2 「法」に関する教育において育てたい児童・生徒像との関連

＜「法」に対する興味・関心＞

- ・生活の中にある約束やきまりに着目し、興味・関心をもつ。

＜「法」に対する知識・理解＞

- ・それぞれの場所には守らなければならない約束やきまりがあることを理解する。

＜「法」に基づき社会の形成に参画する態度＞

- ・それぞれの場所における約束やきまりを意識し、それを自ら進んで守って行動しようとする意欲を高める。

3 「法」に関する教育とかかわりのある主な指導内容との関連

本主題は、小学校学習指導要領道徳の第1・2学年の内容4-(1)「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う。」との関連を図って設定している。

4 本時の展開

※資料名：「キリンさん、ごめんね」

【出典】平成8年文部省「小学校 社会のルールを大切に守る心育てる」

過程	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (★「法」に関する教育と関連があるもの)
導入	<p>1 身近な生活にあるきまりを想起する。</p> <p>①登下校のときに安全に歩くためには、どのようなきまりがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールを守る。 ・ふざけながら歩かない。 	<p>★自校の「登下校のきまり」を掲示する。</p>
展開1	<p>2 資料を読んで話し合う。</p> <p>②遠くにゆったりと歩くキリンさんを見たとき、まさおはどのようなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物のキリンだ。すごいなあ。 ・早く近くまで行ってみたいなあ。 <p>③自分が差し出したお菓子を食べるキリンを見て、まさおはどのようなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べてくれた！かわいいなあ。 ・長い舌だなあ。食べてくれて、うれしい。 <p>④お父さんから「えさをやらないで」のマークの話を聞いたとき、まさおはどのようなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しまった！えさをやってしまった。 ・キリンさん、ごめんね。もうしません。 ・今度から動物園のきまりをしっかりと守ろう。 	<p>○資料は教師が範読する。</p> <p>○キリンの写真やDVDを用意する。</p> <p>○キリンの愛らしさや大きさに感動したまさおの気持ちを想起できるようにする。</p> <p>★キリンにお菓子を食べさせるのは、キリンが喜ぶから、キリンがかわいいからという、自分本位の気持ちがまさおにあることに共感できるようにする。</p> <p>○マークの写真を用意する。</p> <p>★きまりを守らなかったことで、かわいいキリンの命を奪うことになったかもしれないとの思いに至ったまさおの気持ちに共感できるようにする。</p>
展開2	<p>3 きまりを守ることについて、自分を振り返る。</p> <p>⑤きまりを守ることで大事ななあと思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ろうかを走ってしまい、人にぶつかってしまった。「ろうかを走らない」というきまりは必要だと思う。 ・道路に飛び出し、もう少しで事故に遭いそうになったことがある。信号を守るといった交通ルールはしっかりと守らないといけない。 	<p>○児童の実態を十分に配慮する。</p> <p>★体験を振り返り、自分なりに発表するため、内容が公德心やマナーに関する発言でも認めるようにする。</p> <p>★生活の中にあるきまりやルールの必要性に気付くようにする。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>※遊園地、植物園、駅構内等に掲示されているきまりやルールを示すマークを提示し、それぞれの場所に応じたきまりがあること、そしてそのきまりを守ることは自分も他人も守ることになるといった趣旨の説話を述べる。</p>	

□評価：まさおの気持ちを考えることで、場所に応じたきまりを守ろうとする心情が高まったか。

キリンさん、ごめんね

まさおは、おとうさん、おかあさん、いもうとのよし子と いっしょに、
どうぶつえんへ 出かけました。

もんを くぐると、 とおくに ゆったり ゆったりと あるいている
キリンが 見えました。

「うわあ、いた いた。」

まさおは、おもわず かけだしました。よしこも ついてきます。おとうさんと
おかあさんは、まわりを見ながら ゆっくり あるいていきます。

キリンの そばに いくと、まさおは わくわくしました。

「そうだ。おかしが あった。」

リュックから おかしのふくろを とりだしました。

「おにいちゃん、わたしにも。」

まさおは、すこし おかしをとってから、よし子に ふくろごと わたしました。

キリンと まさおの 目が あいました。ぐうっと キリンの かおが

ちかづいてきます。びつくりして おかしを さしだすと、ながい したで

くるんと たべてくれました。

「うわあ、たべたよ。たべたよ。」

そのとき、もう 一とうの キリンが よし子に ちかづきました。よし子は

おかしを ふくろごと さしだしています。まさおが あつとおもったとき、

はしってきた おとうさんが さつと よしこを ひきよせました。

「あの マークを 見てごらん。どうぶつえんには どうぶつえんの きまりが

あるんだよ。」

まさおと よし子の 目に、『えさを やらないで。』と いう マークが

とびこんできました。

「キリンが ふくろを たべると、おなかの 中に たまって びょう気に

なるんだよ。それに おかしを やると ほんとうの えさを たべなくなつて

しまつんだ。」

おとうさんの はなしを ききながら、まさおは はつとしました。テレビで

ビニールをたべて しんだ どうぶつの ニュースを 見たことが あるからです。

「きりんさん、ごめんね。」

まさおは、こころの中で あやまりました。

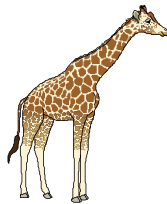
【出典】平成八年文部省「小学校 社会のルールを大切にすることを育てる」

キリンさん、ごめんね

○とうげごうの きまり

○小げごうの
とうげごうの
きまり

- ・つうがくろを まもる。
- ・しんごうを まもる。
- ・よりみちを しない。
- ・ふざけて あるかない。



とおくに ゆったりとあるく キリンさんを みたとき

まさおは、どのようなことを おもったでしょう。

- ・ほんものの キリンさんだ。すごいなあ。
- ・はやく、ちかくまで、いつてみたいなあ。

じぶんが さしだした おかしを たべるキリンをみて、

まさおは、どのようなことを おもったでしょう。

- ・たべてくれた！ かわいいなあ。
- ・ながい しただなあ。たべてくれて、うれしいなあ。

おとうさんから、「えさをやらないで」のマークの はなしを
きいたとき、まさおは、どのようなことを かんがえたでしょう。

- ・しまった！えさを やってしまった。
- ・キリンさん、ごめんね。もうしません。
- ・こんどから どうぶつえんの きまりを しつかりまもろう。

きまりを まもることって、 だいじだなあ、と
おもったことは ありますか。

- ・ろうかで はしって 人とぶつかったとき
- ・「ろうかを はしらない。」という きまりを おもいだした。
- ・どろろに とびだして、くるまに ぶつかりそうに なったとき しんごうを まもらないと いけないと おもった。

道徳

「社会のきまりを守る心」(第3・4学年)

- 1** ねらい
人に迷惑をかけず、社会のきまりやマナーを大切にしようとする心情を育てる。
- 2** 「法」に関する教育において育てたい児童・生徒像との関連
 <「法」に対する興味・関心>
 ・身近な生活の中にあるきまりやマナーに着目し、興味・関心をもつ。
 <「法」に対する知識・理解>
 ・自分が社会のきまりやマナーを守らないことによって、人に迷惑をかけることを理解する。
 <「法」に基づき社会の形成に参画する態度>
 ・社会のきまりやマナーを意識し、それを主体的に守って行動しようとする意欲を高める。
- 3** 「法」に関する教育とかかわりのある主な指導内容との関連
 本主題は、小学校学習指導要領道徳の第3・4学年の内容4－(1)「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。」との関連を図って設定している。
- 4** 本時の展開
 ※資料名：「空きかんの投げすて」
 【出典】平成8年文部省「小学校 社会のルールを大切に作る心育てる」

過程	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (★「法」に関する教育と関連があるもの)
導入	<p>1 身近な生活にあるきまりを想起して発表する。 ①公園や道路で、ごみが捨てられているのを見たことがありますか。そのとき、どんなことを考えましたか。 ・通学路に空きかんが捨てられていた。迷惑だと思った。</p>	<p>○「価値への導入」と「資料への導入」の双方を意図する発問を設定する。 ★放置されたごみを見たときの心情についての発言を重視して板書する。</p>
展開1	<p>2 資料を読んで話し合う。 ②お父さんが投書を読むのを聞いた一郎は、どんな気持ちだったでしょう。 ・子供がけがをしたのは、ぼくたちのせいかなあ。 ・空きかんを片付けて帰ればよかったなあ。 ③新聞の投書を読み返しているときの一郎は、どんなことを考えていたでしょう。 ・けがをしたのは、自分たちのせいではなくてほっとした。 ・空きかんを蹴りながら帰るのは、よくなかった。 ・人の迷惑になることをしなければよかった。 ・空きかんを捨てることは、町を汚すことにもなるんだ。 ④「空きかんを足でけりながら行く小学生」という言葉が気になってしかたない一郎は、どんなことを考えていたでしょう。 ・ぼくのことでないかもしれないけれど、ぼくも同じ行動をしてしまった。恥かしいなあ。</p>	<p>○資料は教師が範読する。 ○投書を模造紙等に拡大して掲示する。 ★自分が飲み終えたジュースの空きかんを蹴り、そのままにした行為を思い出し、不安になる一郎の気持ちに共感できるようにする。 ★他人の迷惑を顧みず、空きかんを捨てている人がいること、そして一郎もその一人だということに気付くようにする。 ★人々の安全や町の美観など公德心を守ろうと呼び掛けている投書者の思いや願いを受け止めている一郎の気持ちをじっくりと考えて、ワークシートに書くように助言する。</p>
展開2	<p>3 きまりを守ることについて、自分を振り返る。 ⑤駅や公園など公共の場で、人に迷惑をかけないためには、どんなことを大切にしようと思いますか。 ・きまりや規則、ルールを守ること。 ・ごみを投げ捨てないこと。</p>	<p>○ワークシートを活用して自分の考えを書くようにする。 ★社会のきまりを守ることの価値について記述している児童を意図的に指名する。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。 ※社会生活を送る上で、人に迷惑をかけないように、守るべき社会のきまりがあることを実感した体験について説話をする。</p>	

□評価：一郎の気持ちを考えることで、人に迷惑をかけず、社会のきまりや公德心を大切にしようとする心情が高まったか。

空きかんの投げすて

日曜日の朝、サツカーの練習に出かけるときのことです。

「なあ、一郎。どうして空きかんを投げすてる人が多いのだろう。一郎は、だいじょうぶだろうね。」

朝食をすませて新聞を読んでいたお父さんが、なにげなく話しかけてきました。

ぼくは、トレーナーに着がえながら、

「だいじょうぶだよ。」

と答えると、お父さんは、

「最近、この町で、すてられた空きかんのために、子どもが大けがをしたそうだよ。」

と言いながら、投書らんを声を出して読み始めました。

このごろ、あちこちにジュースやコーヒーなどの自動販売機ができて、飲んだあと道路や川に投げすてていく人がふえてきたように思います。

私の家の前にも平気ですてたり、へいの上に置いていたりするので、毎日そのかたづけをしなければならず、たいへんこまっています。

先日は、空きかんが強風に飛ばされてころがり、ちょうどそこへ走ってきた幼児がつまずいて頭に大けがをしたのです。

それから二、三日、飲みながら歩いている人のようすを見ていました。あたりを見まわしながらこっそりすてていく人、平気で投げすてていく人、なかには、空きかんを足でけりながら行く小学生もいました。

私たちの町が空きかんであらされていくようで、とても心配です。

〇〇市・女性

（空きかんを足でけりながら行く小学生…）

ということばを聞いたとき、ぼくは、はっとした。

先週の日曜日、山本くんとサツカーの練習から帰るとき、飲み終えたジュースの空きかんをけりながら帰り、道ばたにそのままにしておいたことを思い出したのです。

「一郎くん、練習に行こう。」

ちょうどそのとき、山本くんがむかえに来たので、あわてて家を飛び出しました。

サツカーの練習が始まりましたが、投書のこと気がななって、いつもの調子がでません。

山本くんにも話してみたのですが、

「そんなに気にすることはしないよ。」

と言うので、そのまま練習を続けました。

家に帰って、先週の日曜日のことをお父さんに話したら、

「この投書に書いてあるけがは、もつと前のことだから、一郎たちのせいではないよ。でも、空きかんのしまつは、ひとりひとりが気をつけないければいけないね。」

と言いながら、ぼくに新聞をわたしてくれました。

ぼくは、落ち着いて投書を読みました。

お父さんが言うように、そのけがは、ぼくたちのせいではないようで、ほっとしました。それでも、

（空きかんを足でけりながら行く小学生）

ということばが気になってしかたがありません。

あした、山本くんやクラスみんなにこの投書を見せて、話し合ってみようと思います。

【出典】平成八年文部省

「小学校 社会のルールを大切に育てる心」

道徳

「法を守る心」(第5・6学年)

1 **ねらい**
 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たそうとする心情を育てる。

2 **「法」に関する教育において育てたい児童・生徒像との関連**
 <「法」に対する興味・関心>
 ・身近な生活の中にある法やきまりに着目し、興味・関心をもつ。
 <「法」に対する知識・理解>
 ・法やきまりの意義や自分に課せられた義務をしっかりと果たすことの大切さについて理解する。
 <「法」に基づき社会の形成に参画する態度>
 ・社会の法やきまりを意識し、公德心をもってそれを主体的に守り、自分に課せられた義務を果たそうとする。

3 **「法」に関する教育とかかわりのある主な指導内容との関連**
 本主題は、小学校学習指導要領道徳の第5・6学年の内容4-(1)「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。」との関連を図って設定している。

4 **本時の展開**
 ※資料名：「危険です ガラスが入っています」
 【出典】平成6年文部省「小学校 読み物資料とその利用～主として集団や社会とのかかわりに関すること～」

過程	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (★「法」に関する教育と関連があるもの)
導入	1 身近な生活の中にあるきまりを想起する。 ① 普段、家庭や学校で、ごみをごみ箱に捨てる時、どんなことに注意していますか。 ・分別のルールを守って捨てるようにしている。	○居住地によって、ごみの分別区分や名称が異なることを伝えるとともに、自校の状況も説明する。
展開1	2 資料を読んで話し合う。 ② お母さんに「他の人がどうであろうと、ルールは守らなくてはね。」と注意されたかおりは、どんな気持ちだったでしょう。 ・めんどろだし、他の人だって、やってるよ。 ③ 学校で割れた牛乳瓶を、何も考えずに捨ててしまった自分を思い出したかおりは、どんなことを考えていたでしょう。 ・ああ、失敗した。ごみの分別は、環境だけではなく、収集する人の安全も守ることなんだ。 ・ルールを守ることは、人間を守ることなんだ。 ④ 父の「 <u>ごみは、出す人の心の鏡みたいなもの</u> 」という言葉聞きながらかおりは、どんなことを考えていたでしょう。 ・自分にできることを、まずしっかりとやろう。 ・法を守ることは、まず身近なきまりやルールを大切にすることだ。行動には人の心が現れる。	○資料は教師が範読する。 ○「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」のカードを黒板に提示する。 ○総合的な学習の時間の環境問題等の学習の作品等を用意し、関連付ける。 ○「危険です ガラスが入っています」の張り紙付きのごみ袋を用意して動作化を取り入れる。 ★自分からごみ箱を2つ用意したかおりの行動について補助発問をする。 ★ごみを出す上で守るべきルールがあることや、人や環境への思いやり等についても触れる。
展開2	3 法を守ることについて、自分を振り返る。 ⑤ 法律や規則、ルールは、自分も他人も守るためにあると思った体験はありますか。 ・二人乗りの自転車が人とぶつかりそうになったのを見た。	★個人で考えた後、それを基に小グループで発表する。教師は、机間指導中に、全体に広げたい価値の意見を集めて、全体で紹介する。
終末	4 教師の説話を聞く。 ※自分の権利には、守るべき義務が伴うことを実感した体験について説話する。	

□評価：かおりの気持ちをじっくりと考えることを通して、公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切に、進んで義務を果たそうとする心情が高まったか。

危険です ガラスが入っています

今日は、週に一度の燃えないごみを出す日です。家のごみをまとめて、ごみ置き場まで出しにいくのが、私の仕事です。今日の朝も、家のごみをふくろにまとめていました。

「かおり、燃えないごみの中に燃えるごみが入っているわよ。」

「はい、はい。」

またはじまった、と思いながら、わたしは、母に返事をしました。

わたしの家は、この春、このS市に引っこしてきたのです。S市では、燃えるごみ、燃えないごみ、かんやびんのようなリサイクルできる資源ごみ、というように、細かく分けて出すように決められています。

「お母さん、燃えないごみの中に、かんを入れてある人だっているのよ。かんは別に出すことになっているのに。」

わたしは、母に言いわけをするように言いました。

「かおり、他の人がどうであろうと、ルールは守らなくてはね。」

「でも……………」

わたしは、そこまで言って、言葉を飲みこんでしまいました。

*

*

*

≪危険です ガラスが入っています≫

ある日、いつものようにごみを出しに行くと、ごみのふくろに太いマジックで大きく書かれた文字が、私の目に飛びこんできました。ふくろの口はしっかりと結ばれ、中にもふくろが入っていて、二重になっているようです。

家に帰って、父と母に、そのごみふくろのことを話しました。

「お母さん、おおげさよね。うちでは、そんなことしたことないものね。」わたしは、何げなく母に言いました。

「それでもないのよ。最近、ごみを集める人たちが、ごみふくろの中に入っている割れたガラスやプラスチックのために、けがをすることがあるそうよ。ふくろに危険ですと書いた人は、それを心配したのではないかしら。」

父も新聞から目を上げて言いました。

「焼き鳥のくし、それから使い終わったライターもあぶないそうだよ。」長そで、厚手の手ぶくろ、そしてブーツ。そういえば、一年を通じてごみを集める人は、これらを身につけています。

わたしは、ふと学校のできごとを思い出しました。わたしが給食の時間に、牛乳びんを落として割ってしまったことがあります。

みんなも手伝ってくれて、牛乳でよごれたゆかをきれいにふいてくれました。わたしは、ガラスのかけらを、ほうきではいて、ごみすて場の燃えないごみの大きなポリバケツの中に、そのまま捨ててしまいました。あの割れた牛乳びんも、だれかが持つていってくれたのでしよう。

あのごみふくろに書かれた文字がうかんできます。牛乳びんのかからを持つていった人は、だいじょうぶだったでしょうか。

「わたし、学校で割れた牛乳びんを、何も考えないで捨ててしまったの。」

母に、割れた牛乳びんのことを話しました。

「そうね、ごみは出してしまえば、終わりというわけではないものね。」母は、やさしく、わたしを見つめました。

*

*

*

次の燃えないごみの回収日。

おかしの入っていた箱やビニールぶくろなども燃えるものと燃えないものに、きちんと分け、ふくろの口をぎゅっとしばりました。

「お母さん、わたし、自分のへやにもごみ箱を二つ置こうと思うの。」

「あら、どうして。」

母は、にこにこしながら、わたしにたずねました。

「燃えるものと燃えないものにしっかり分けるためよ。それぐらい、わたしにだってできるもの。」

わたしは、てれながら答えました。

「そうだね。ごみは、出す人の心の鏡みたいなものだからね。」

父も、顔をほころばせながら、母と目を合わせていました。

【出典】平成六年文部省「小学校 読み物資料とその利用

〜主として集団や社会とのかかわりに関すること〜」